MYU 2024

Public University Corporation MIYAGI UNIVERSITY

令和６年度入学

宮城大学入試ガイド

入学者選抜に関する問い合わせは
宮城大学 アドミッションセンター

大和キャンパス／〒 981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑１番地１
TEL.022-377-8333　FAX.022-377-8282
宮城大学ウェブサイト https://www.myu.ac.jp/

宮城大学
MIYAGI UNIVERSITY

Contents

総合型選抜

1. 選抜方法と日程 ―― 3
2. 総合型選抜はこんな方にオススメ！ ―― 4
3. 総合型選抜の概要
   （1）出願書類 ―― 4
      自己申告書① ―― 5
      自己申告書② ―― 6
   （2）第 1 次選考 ―― 7
      レクチャー①・レクチャーレポート ―― 7
   （3）第 2 次選考 ―― 9
      レクチャー②・グループワーク・ふりかえりレポート ―― 9
      面接（口頭試問を含む。） ―― 10

学校推薦型選抜

1. 選抜方法と日程 ―― 12
2. 学校推薦型選抜はこんな方にオススメ！ ―― 12
3. 入試科目「面接」の概要 ―― 12

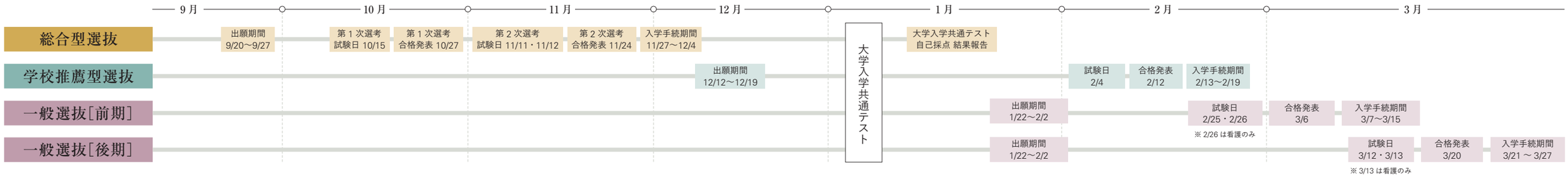
一般選抜［前期・後期］

1. 選抜方法と日程 ―― 13
2. 大学入学共通テストおよび個別学力検査の科目等 ―― 13
3. 入試科目「論説」の概要 ―― 15
4. 一般選抜における主体性等の評価 ―― 16

入学者選抜方法についての Q & A ―― 17

令和 5 年度入学 入試結果 ―― 19
令和 5 年度出身校所在地別志願者数・入学者数 ―― 19

Schedule 令和 6 年度入学　入試スケジュール



令和 6 年度入学 宮城大学入学者選抜方法

社会情勢等によりやむを得ず選抜方法や選抜日程に変更等が生じる場合は，速やかに本学ウェブサイトにて公表いたします。
https://www.myu.ac.jp/admissions/colleges/

学類単位の入試

総合型選抜 （P.3 参照）

入試科目

各学類	第 1 次選考		1. レクチャー① 2. レクチャーレポート	3. 提出書類
	第 2 次選考	1 日目	1. レクチャー②	2. グループワーク 3. ふりかえりレポート
		2 日目	4. 面接（口頭試問を含む。）	
		5. 提出書類		

●レクチャー①，レクチャーレポート，提出書類による第 1 次選考を行い，合格者に対して第 2 次選考を行います。第 2 次選考では 2 日間の試験を通して，「課題を設定し，見通し，解決し，振り返る力」を評価します。
●高等学校長からの推薦は要しませんので，どなたでも出願できます。
●本学が指定する大学入学共通テスト科目を受験していただき，入学手続後に自己採点のスコアを提出していただきます。
●本学の一般選抜や学校推薦型選抜との併願ができます。

→ 入学時に決定した学類のまま，2 年次に進むことができます。

※原則として，途中で学類を変更することはできません。

※このほか，外国人留学生入試を実施します。

学群単位の入試

学校推薦型選抜 （P.12 参照）

入試科目

各学群	大学入学共通テスト	面接

●大学入学共通テストの受験を課し，合計点を総合判定の一部として利用します。
●本学の一般選抜や総合型選抜との併願ができます。

一般選抜［前期・後期］ （P.13 参照）

入試科目　　個別学力検査

看護学群	大学入学共通テスト	外国語	論説	面接
事業構想学群		外国語	論説	数学
食産業学群		外国語	理科	数学

→ 2 年次進級時に，学類配属を決定します。

※看護学群は 1 学類のため，全員が看護学類で学ぶことになります。

※このほか，社会人・帰国子女入試を実施します。

総合型選抜

1 選抜方法と日程

募集人員

看 護 学 群：看護学類８名
事業構想学群：事業プランニング学類８名 ／ 地域創生学類８名 ／ 価値創造デザイン学類８名
食 産 業 学 群：生物生産学類８名 ／ フードマネジメント学類８名

大学入学共通テストの受験が必要です。
大学入学共通テストの出願期間については，大学入試センターが発表する実施要項を確認してください。

出願期間

令和５年９月 20 日（水）～令和５年９月 27 日（水）【期間内必着】

第１次選考

令和５年 10 月 15 日（日）

第１次選考では，次の活動と出願書類により選考を行います。

レクチャー①	講師によるレクチャー（あるテーマについて，さまざまな資料やデータを用いて事例紹介や説明等を行う。）を受講する。
レクチャーレポート	レクチャー①の内容に関するレポート（設問形式）を作成する。
自己申告書〈出願時に受験者が作成〉	自己を推薦する文章および学修計画に関する文章を作成する。
調査書〈出願時に出身高校等で作成〉	高校等での学業成績や活動の記録・評価等を記載する。

第１次選考合格発表

令和５年 10 月 27 日（金）

第２次選考

第２次選考では，第１次選考に合格した方に対して，２日間の活動を通した選考を行います。

１日目〈令和５年 11 月 11 日（土）〉

レクチャー②	講師によるレクチャー（レクチャー①のテーマを踏まえた内容について，さまざまな資料やデータを用いて事例紹介や説明等を行う。）を受講する。
グループワーク	レクチャー②に関するテーマについて，少人数のグループで議論を行う。
ふりかえりレポート	一連の過程を振り返り，自身の思考の変化や深まりをレポートにまとめる。

２日目〈令和５年 11 月 12 日（日）〉

面接（口頭試問を含む。）	高校までの基礎的な学習成果を問う口頭試問，志望する学類への意欲や資質を問う面接を行う。 ※口頭試問では，「英語」と「数学」に関する基礎的な内容の口頭試問を実施します。

第２次選考合格発表

令和５年 11 月 24 日（金）

入学手続き後

本学入学後の指導の参考とするため，令和６年度大学入学共通テストにおいて，本学が指定する科目を受験し，自己採点結果を報告していただきます。

2 総合型選抜はこんな方にオススメ！

・大学で学びたいことや，進みたい学類が決まっている方
・学類での学修に対する強い意欲や高い資質のある方
・高等学校までの総合的な学習（探究）の時間等で問題解決型の活動に意欲的に取り組んできた方

3 総合型選抜の概要

重視する「高校等での学習」の成果

総合的な学習（探究）の時間や各教科等での，①問題解決型の活動が発展的に繰り返される探究学習，②互いの考えを伝え合い，自身の考えを発展させる等，他者と協働して課題を解決する学習，③自ら得た情報を分析・評価し，まとめ，表現する学習等

例：総合的な学習（探究）の時間での探究活動・協働的な学習・言語活動，SSH での科学的探究活動，SGH でのグローバル探究学習，専門高校でのプロジェクト学習等

総合型選抜で評価する資質や能力

これまでの学習に基づく学力の基盤や，高校等での探究的活動に裏付けされた課題発見・解決能力に加えて，自身の興味や関心に基づいた，学類での学修に対する強い意欲や高い資質

（１）出願書類

自己申告書は受験者本人が作成したものを，調査書は高校等で作成されたものを提出してください。

自己申告書①

自己申告書①の内容	これまで（主に高校等）の学習成果やそのことによって得た自身の強みについて，事実に基づいて示し，自己を推薦する文章を作成する。 ※ P.5 参照
「高校等での学習」の成果として重視する点	高校等での学びの実践を通して，主体的に学び考え，自ら課題を設定し，興味や関心を追究する力や態度が身についている。
評価する資質や能力	これまでの学習や活動の実績に裏付けられた自身の強みについて，根拠を提示しながら，筋道を立てて説得力のある文章で表現できる力。

自己申告書②

自己申告書②の内容	志望する学類への興味や関心をもとに，志望する学群・学類を卒業した後の目標を実現するために「何を」「どのように」学びたいか，自身の学びの展望を提示し，学修計画を立てる。 ※ P.6 参照
「高校等での学習」の成果として重視する点	見通しをもって，自身の興味や関心をよく整理した上で，入学後の目標を設定し，その実現に向けた道筋を計画する力や態度が身についている。
評価する資質や能力	自ら志望する学類への興味や関心をもとに，志望する専門分野の学問的意義や社会的位置付けを関連させながら志望する学群・学類を卒業した後の目標を設定し，その実現に向けた自身の展望を，根拠を提示しながら，筋道を立てて説得力のある文章で表現できる力。

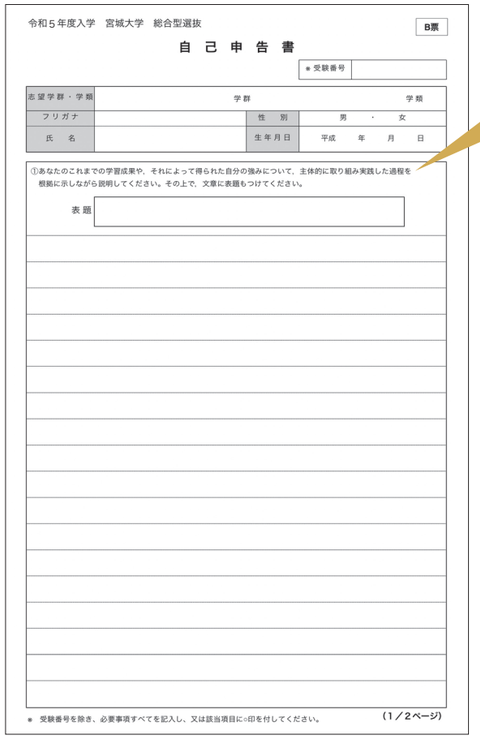
調査書

評価する資質や能力	・高校等での学業成績（評定平均値を含む。）等の観点からみた学力の基盤。 ・調査書における「指導上参考となる諸事項」および「総合的な学習（探究）の時間の内容・評価」やその他の記載事項からみた学習内容　等 ※総合的な学習（探究）の時間を履修しなかった者（研究開発学校，専門学科）については，総合的な学習（探究）の時間に代わる活動の内容・評価を記した副申書をもって代えることができる。

自己申告書①　これまでの学習成果やそのことによって得た自身の強みを PR する

作成にあたって

・学習成果とは，各教科の学習（総合的な学習（探究）の時間を含む。），ホームルーム活動，生徒会活動および学校行事での成果のことを指します。課外の部活動や学外活動（ボランティア活動等）について述べる場合も，各教科の学習（総合的な学習（探究）の時間を含む。）やホームルーム活動，生徒会活動および学校行事と関連づけて書いてください。
・学習成果は，「～を経験した」「～ができた」「～の成果を残した」という事実や結果の列挙だけではなく，そこに至るまでの過程や，どのように考えて活動したか，また，それらを通して自分が何を学んだか等を具体的に書いてください。
・高等学校等での学習（例えば探究学習等）を通して得た「これだけは誰にも負けない」という自分の強みについて書いてください。
・他人の言葉や書籍・インターネットから引用するのではなく，自分の経験を踏まえ，自分の言葉で書いてください。


令和５年度入学　宮城大学　総合型選抜　B票

自　己　申　告　書

＊受験番号

志望学群・学類	学群　　学類		
フリガナ		性　別	男　・　女
氏　名		生年月日	平成　年　月　日

①あなたのこれまでの学習成果や，それによって得られた自分の強みについて，主体的に取り組み実践した過程を根拠に示しながら説明してください。その上で，文章に表題もつけてください。

表題

＊ 受験番号を除き、必要事項すべてを記入し、又は該当項目に○印を付けてください。　（1／2ページ）

①あなたのこれまでの学習成果や，それによって得られた自分の強みについて，主体的に取り組み実践した過程を根拠に示しながら説明してください。その上で，文章に表題もつけてください。

（※令和５年度入学者選抜で使用したものです。令和６年度入学者選抜では提出方法について変更が生じる場合があります。）

作成のポイント

・これまでの学習のなかで，課題を自分で見つけて，それを解決するための活動や情報収集を行った経験があれば，その過程を具体的に記載しよう。
・その結果，どのようなことが得られたのか，学習と得られたこととのつながりがわかるように記載しよう。
・学習の過程で，新しい気づきがあったか，自分の強みは何か，振り返って考えてみよう。自分を分析してみることが大切！
・ほかの人にはない自分の特徴をアピールしよう。

自己申告書②　入学後の学びの展望を示す

作成にあたって

・単に「～を学びたい」「～をしたい」ということを書くのではなく，なぜその分野に興味を持ったのか，興味を持ったことに対してこれまでにどのような活動をしたのか等を具体的に書いた上で，入学後の学修に対する自らの展望を説明してください。
・志望する学群・学類が持つ学問的意義や社会的位置付けを明確にしながら，志望分野への強い意欲や，自ら積極的に学ぼうとする姿勢等を，自分の言葉で書いてください。
・大学での４年間の学びにとどまらず，大学卒業後の自分の将来の姿をイメージし，関連させながら書いてください。

B票

フリガナ	
氏　名	

＊受験番号

②あなたが，志望する学群・学類を卒業した後の目標を実現するために，「何を」「どのように」学びたいのかを計画し，文章で書いてください。

（2／2ページ）

②あなたが，志望する学群・学類を卒業した後の目標を実現するために，「何を」「どのように」学びたいのかを計画し，文章で書いてください。

（※令和５年度入学者選抜で使用したものです。令和６年度入学者選抜では提出方法について変更が生じる場合があります。）

作成のポイント

・志望する分野に興味を持ったきっかけや理由を具体的に記載しよう。
・志望する分野に関連することについて，自分で活動したり，調べたりしたことがあれば，必ず記載しよう。
・大学での学びへの熱い思いを記載しよう。将来の「夢」だけではなく，入学後にいつ，何を，どのように学んでいくのかなど，できるだけ具体的に「計画」を立ててみよう。
・大学での学びは，社会ではどんな意味があるのか，調べてみよう。ウェブサイトでは研究内容の紹介もしているので，興味のある分野を覗いてみることもおすすめ！

（2）第 1 次選考

第 1 次選考では，以下の活動（レクチャー①，レクチャーレポート）を評価した成績に加えて，自己申告書，調査書の内容を総合的に判定して選抜を行います。

試験科目	内　容	評　価
レクチャー①（50 分）	講師によるレクチャー①を受講します。	レクチャーレポートを対象とします。
レクチャーレポート（80 分）	レクチャー①の内容に関するレポートを作成します。	

レクチャー①・レクチャーレポート

レクチャー①・レクチャーレポートの内容	レクチャー①（あるテーマについて，さまざまな資料やデータを用いて事例紹介や説明等を行う。）を受講し，その後，レクチャー①の内容に関するレポート（設問形式）を作成する。
「高等学校での学習」の成果として重視する点	聴講活動を通して，課題意識をもち，得られた事象や情報を整理･分析し，概要にまとめ，論述する力や態度が身についている。
評価する資質や能力	与えられた事象や情報を的確に把握し，その中から必要なものを抽出・分析する力。さらに，自身が探究すべき課題を設定し，高校等での学習や自身の経験をレクチャー①の内容と関連付けながら，その解決への道筋を考察し，論述できる力。

【参考】昨年のレクチャー①・レクチャーレポートの内容例（実際のものと一部表現が異なります。）

〈レクチャー①概要〉

交通分野における多様性への対応として，「社会的障壁を除去する」というバリアフリーの取り組みと，「より多様な人々が使いやすいように環境をデザインする」というユニバーサルデザインの取り組みを，具体例とともに説明した。併せて，交通分野における取り組みが今日直面している課題についても取り上げることで，一つの施設整備で対応できる範囲の限界をふまえながら異なる立場の人たちと対話を重ねていく必要性についても，問題提起した。

〈レクチャー①資料〉

図表 1　ピクトグラム
図表 2　バリアフリー設備の例
図表 3　旅客施設におけるバリアフリー化の推移
図表 4　障がい児・障がい者数の推移
民間企業における障がい者の雇用状況
図表 5　車いす利用者を対象としたリフト付きバスの導入
図表 6　交通困難者の実態
図表 7　ユニバーサルデザインの考え方
図表 8　低床（ノンステップ）バスの導入
図表 9　低床（ノンステップ）バスに掲示されたピクトグラム
図表 10　21 世紀の日本が目指す社会の課題
図表 11　バスの違いによる車内人数と降車にかかる時間の比較
図表 12　ツーステップバスとノンステップバスの構造と定員
図表 13　2 つの点字ブロック
図表 14　カーブした点字ブロックへのコメント

〈レクチャーレポート設問〉

問 1　バリアフリーに関する，以下の設問に答えなさい。
(1)【図表 3】において，2010 年度から 2012 年度にかけてバリアフリー化 100％を達成した施設の割合が低下した理由について，レクチャーの内容をふまえて 100 字以内で述べなさい。
(2)【図表 4-1】及び【図表 4-2】の数値をもとに，①身体障がい児・者数の 2006 年から 2018 年にかけての増加率（％），②民間企業における身体障がい者の雇用者数の 2006 年から 2018 年にかけての増加率（％）をそれぞれ求めなさい。なお，解答にあたっては計算式も示し，数値は小数第 1 位を四捨五入して答えなさい。
(3) レクチャー内容と問 1（2）で明らかにした数値に基づき，これまでの日本におけるバリアフリー化の経過と今後の課題について 200 字以内で論じなさい。なお，【図表 4-1】の 2006 年から 2018 年にかけての障がい児・障がい者の年齢構成比に変化はないものとする。

⇒ねらい：**交通分野におけるバリアフリーの取り組みと，その経緯に関するデータを読み取るとともに，現状の取り組みの中で生じている課題を整理し，さらなるバリアフリーの取り組みが今後求められる理由について，論理的に説明できる力をみる。**

問 2　ユニバーサルデザインに関する，以下の設問に答えなさい。
(1) リフト付きバスから低床バスに変わったことによって，どのような人が乗降しやすくなったと考えられるか，【図表 6】の分類から 2 つ選び，それぞれの具体例を示しなさい。
(2) 低床バスでもカバーすることのできない交通困難者には，どのような人がいると考えられるか，具体例を 2 つあげなさい。
(3) 問 2（1）(2）をふまえたうえで，交通をめぐるユニバーサルデザインの現状と，さらにより多くの人が使いやすくなるために考えなければならないことについて，200 字以内で説明しなさい。

⇒ねらい：**ユニバーサルデザインの交通分野における取り組みとその現状に関して，バリアフリーとの違いや，より多くの人が使いやすいことを目的とするときに念頭に置かねばならないことについて，レクチャー①での説明を理解し，それを論理的に説明することができる力をみる。**

問 3　多様性への対応について，以下の設問に答えなさい。
(1)【図表 11】【図表 12】に基づいて，低床バスのメリット・デメリットを 120 字以内で具体的に説明しなさい。
(2)【図表 14】に基づいて，点字ブロックを整備する側の意図と利用する側の受け止め方の違いについて，120 字以内で具体的に説明しなさい。
(3) 問 3（1）(2）の解答をふまえ，多様性への対応について，その社会環境を整備する側と社会に生きる人びとのそれぞれがどのようにあるべきか。あなたの考えを 300 字以内で述べなさい。なお解答にあたっては，レクチャー内容やこれまでの体験や学習など，何に基づいてそのような考えに至ったのか，具体的に述べること。

⇒ねらい：**問 1 と問 2 で確認したバリアフリー・ユニバーサルデザインの現状と課題に加えて，ユニバーサルデザインによって不便さが生じる事例や，整備する側と利用する側とで受けとめ方が異なる事例を具体的に考えるとともに，交通分野のみならず，今後，多様性に対応していく際に必要となる考え方について，論理的に説明できる力をみる。**

レクチャー①・レクチャーレポートのポイント

・レクチャー①で説明される内容を，理解しながらしっかりメモしておこう。
・レクチャー①やレクチャーレポートでは，グラフや表が多く出てきます。様々な種類のグラフや表を正しく読み取るだけでなく，複数のグラフや表を組み合わせると，どんなことが読み取れるのか，普段から考える癖をつけておこう。
・読み取った内容を文章で適切に表現できるようにしておこう。
・レクチャー①で説明される内容と，高校までの学習内容や自らの体験などを結びつけて理解を深めよう。

（3）第２次選考

第１次選考に合格した方に対して，２日間の活動を行い，２日間の活動を評価した成績および自己申告書，調査書等の出願書類の内容を総合的に判定して選抜を行います。

選抜日程	試験科目	内　容	評　価
１日目	レクチャー②（50 分）	講師によるレクチャー②を受講します。 レクチャー②の内容は，レクチャー①のテーマを踏まえ，多様な視点等を加えて発展させたものを予定しています。	主としてふりかえりレポートを対象とします。
	グループワーク（60 分）	レクチャー②に関連するテーマについて，少人数のグループで議論を行います。	
	ふりかえりレポート（80 分）	レクチャー②から一連の過程を振り返り，レポートを作成します。	
２日目	面接（口頭試問を含む。）（25 分）	高校までの基礎的な学習成果を問う口頭試問および志望する学類への意欲や資質を問う面接を受けます。 １人あたり 25 分間の面接を行います。内訳は以下のとおりです。 ・口頭試問（約 15 分） ・面接（約 10 分）	口頭試問を重視します。

レクチャー②・グループワーク・ふりかえりレポート

レクチャー②・グループワーク・ふりかえりレポートの内容	レクチャー②（レクチャー①のテーマを踏まえた内容について，さまざまな資料やデータを用いて事例紹介や説明等を行う。）を受講し，その後，レクチャー②に関連するテーマについて，少人数のグループで議論（グループワーク）を行う。グループワーク終了後，レクチャー②から一連の過程を振り返り，自身の思考の変化や深まりをレポートにまとめる。
「高校等での学習」の成果として重視する点	他者と協働して課題を解決することができる力や，課題解決に至るまでのプロセスの中で，自身の思考の変化や深まりに気づく力が身についている。
評価する資質や能力	自身の考えを他者と共有し，進んでグループに貢献する力や，他者の意見や問題提起等を受け，さまざまな意見や高校での学習，自身の経験などを比較しながら，自身の思考を展開する力。さらに，自身の思考の展開について，根拠を示しながら，筋道を立てて説得力のある論述ができる力。

【参考】昨年のレクチャー②・グループワーク・ふりかえりレポートの内容例（実際のものと一部表現が異なります。）

〈レクチャー②概要〉

多様性への対応を考える対象として「色」を取り上げ，色の見え方と感じ方が人それぞれであること，他者とのコミュニケーションにおいて色を用いる際に注意すべきことについてレクチャーを行った。全ての生物・ヒトが同じように色を認識しているわけではなく，私たちヒトの間でも色の捉え方が多様であることを紹介した。さらに，色に対するイメージや好き嫌いには，国や地域，性別，世代，個々人によって共通点や相違点があり，誰もが色について自分と同じような印象をもっているとは限らないことを確認した。これらのことから，色を扱う際には，目的や環境に応じて工夫するとともに，可能な限り，情報がすべての人に正確に伝わるようにすることの必要性を説明した。

〈レクチャー②資料〉

図表１　色の３要素
図表２　リンゴを見ているイメージ
図表３　目の構造と色を捉えるしくみ
図表４　ヒトと他の哺乳類との色の見え方の違い
図表５　色の印象・イメージ
図表６　性別と世代による色の好みの違い
図表７　色の好きと嫌いの関係（調査結果）
**　　色の好きと嫌いの関係（色の型分類）**
図表８　色が意味をもつ例
図表９　色の選択と工夫（伝統色と顧客の嗜好）
図表 10　色の選択と工夫（コーポレートカラーと景観への配慮）
図表 11　カラーユニバーサルデザインの考え方
資料　Ｋ社の概要と記念事業

〈グループワークテーマ〉

現在，Ｋ社では創業 100 周年記念事業が計画されており，記念事業推進チーム内で，Ｋ社のロゴの色使いについて検討されている。現時点では次の２案が意見として出されている。
Ａ案　「Ｋ社のコーポレートカラーのダークブラウンとゴールドを基調とした色使い」
【Ａ案賛同者からの意見】
〈省略〉
Ｂ案　「Ｋ社のコーポレートカラーにとらわれず，社会全体を明るく照らすような活気のある色を基調とした色使い」
【Ｂ案賛同者からの意見】
〈省略〉
以上のことをふまえて，Ｋ社の記念事業推進チームに参加するものとして，Ａ案とＢ案のメリット・デメリットについて整理したうえで，どのような案とすべきか議論しなさい。
〈省略〉

〈グループワーク資料〉

資料　顧客アンケート「おかげさまで創業 100 周年！あなたのＫ社のイメージを教えてください！」の自由意見の一部

〈ふりかえりレポート設問〉

問１　資料冊子を含むレクチャー②の内容に基づき，以下の設問に答えなさい。
（1）【図表４】をふまえて，２色型色覚と３色型色覚での色の見え方の違いについて，色相，彩度，明度の用語を用いて 160 字以内で説明しなさい。
（2）【図表 7-2】に基づいて，両価型の特徴を，嗜好（しこう）色型および嫌悪色型との違いに触れながら説明しなさい。また，両価型の色を扱う際の注意点を述べなさい。あわせて 160 字以内で述べなさい。
（3）レクチャー②の３章をふまえて，ある企業が新たな地域に店舗の看板を設置する際に，「色」について考慮するべき要素を３つ，それぞれ 40 字以内で説明しなさい。

⇒ねらい：**レクチャー②の内容を正しく理解し，複数の資料を活用して，色の見え方の違いや，色を扱う際に考慮すべき要素を説明する力をみる。**

問２　自己ワークとグループワークをふまえたうえで，以下の設問に答えなさい。
（1）あなたが自己ワークで整理したＫ社の顧客の特徴と，記念事業の２つのねらいに応じた色の考え方について，160 字以内で説明しなさい。
（2）グループワークを経て，あなたは最終的にどのような案に至ったのか，200 字以内で説明しなさい。解答にあたっては，その最終案を採用した根拠を，採用しなかった案と対比しながら説明しなさい。なお，あなたの結論とグループワークの結論が異なっていてもかまわない。
（3）問２(2) で述べたあなたの結論における色の考え方は，記念事業の２つのねらいにどのように応じたものとなっているか，160 字以内で説明しなさい。なお，問２（1）で述べた色の考え方と異なっていてもかまわない。

⇒ねらい：**自己ワークで提示した資料とグループワークでの他者の意見を参考にして自らの考えを深め，自らの色に対する考え・主張を根拠に基づいて論じるとともに，客観的に評価できる力をみる。**

問３　レクチャー①（1 次選考）やレクチャー②の受講，グループワークを通して，多様性への対応について，あなたの考えはどのように変化したか，または深まったか，200 字以内で述べなさい。なお，解答にあたっては，具体的な根拠（レクチャーやグループワークの内容，高校までの学習内容，あなた自身の体験など）を示しながら述べなさい。

⇒ねらい：**レクチャー①，レクチャー②，およびグループワークにおける他者の意見をふまえて自らの思考の過程を整理し，考えがどう深まったか，あるいは変化したかを論理的に説明できる力をみる。**

レクチャー②・グループワーク・ふりかえりレポートのポイント

・レクチャー②では，レクチャー①同様に説明される内容を，理解しながらメモをとり，自分の考えを整理しよう。
・グループワークでは，自分以外の受験者の意見を聴いて，自分とは違う考えがあるということも理解し，自分の考えをできるだけ深めるようにしよう。議論に積極的に参加することが，自分の考えの整理にも役立ちます。
・ふりかえりレポートでは，グループワークで議論したことを踏まえて，他者の意見をヒントに自らの考えを広げ，どのように変化したり，確かなものになったか，文章で表現しよう。

面接（口頭試問を含む。）

面接（口頭試問を含む。）の内容	基礎的な学習成果に基づく口頭試問，志望する学類での学修に対する意欲や資質を問う面接を行う。 ※口頭試問では，「英語」と「数学」に関する基礎的な内容の口頭試問を実施します。
「高校等での学習」の成果として重視する点	自身の興味や関心を整理し，入学後の学修を見通す力や態度が身についている。
評価する資質や能力	高等学校までの基礎的な学習成果および高等学校等での学びの実践に基づく，学類での学修に対する強い意欲や高い資質。

総合型選抜

昨年の口頭試問の内容例　（実際のものと一部表現が異なります。）

〈英語〉

【提示資料】

Olivia has just arrived at the train station. She talks to a man who seems to be waiting for the train. She tells him that she is a little late, but wants to know if she missed the 7:10 train to Vancouver. According to the man, the train did not come on time, so he checked the timetable and found it had not (　①　). The ticket agent he asked then told him that all the trains were (　②　) schedule this morning. Olivia is relieved to hear this because she will have a midterm for her economics class at university, and she cannot miss it or she will not be able to get the credit.

【口頭試問内容】

問 1　(　①　) に入れるのに最も適切な語をア～エから選び，記号で答えなさい。
ア　been changed
イ　changing
ウ　being changed
エ　for change

問 2　(　②　) に入れるのに最も適切な語をア～エから選び，記号で答えなさい。
ア　late
イ　on
ウ　into
エ　behind

問 3　次の設問に対して，最も適切な答えをア～エから選び，記号で答えなさい。
What did the man say he did?
ア　Got on the 7:10 train.
イ　Arrived at the station late.
ウ　Changed the schedule.
エ　Asked the station staff.

問 4　次の設問に対して，最も適切な答えをア～エから選び，記号で答えなさい。
What will Olivia most likely do next?
ア　Take a turn.
イ　Use a credit card.
ウ　Get on a train.
エ　Talk to the ticket agent.

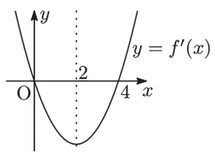
問 5　この英文に付けるタイトルとして最も適切なものをア～エから選び，記号で答えなさい。
ア　The Missed Test
イ　The Relieved Train Agent
ウ　The Changed Timetable
エ　The Delayed Train

〈数学〉

【口頭試問内容】

問 1　次の各問に答えなさい。
(1) 方程式 $2\log_3 x = 2$ を解きなさい。
(2) 方程式 $\log_3 x^2 = 2$ を解きなさい。

問 2　関数 $y = f(x)$ の導関数 $y = f'(x)$ は 2 次関数であり，そのグラフが下の図のようになっているとき，次の各問に答えなさい。



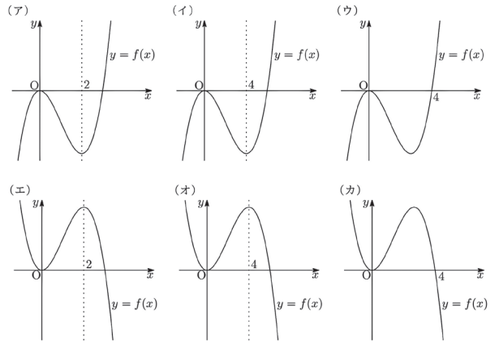
図

(1) 導関数 $y = f'(x)$ のグラフから，関数 $y = f(x)$ が減少している区間として適切なものを 1 つ選択しなさい。

a) $x \leqq 0$　　b) $x \leqq 2$　　c) $0 \leqq x \leqq 2$　　d) $0 \leqq x \leqq 4$

e) $2 \leqq x \leqq 4$　　f) $x \geqq 0$　　g) $x \geqq 2$　　h) $x \geqq 4$

(2) 元の関数 $y = f(x)$ のグラフとして最も適切なものを 1 つ選択しなさい。ただし，各図の x 軸方向，y 軸方向の縮尺は同一とは限らないことに注意しなさい。



学校推薦型選抜

1 選抜方法と日程

募集人員	**看 護 学 群**：24 名 **事業構想学群**：40 名 **食 産 業 学 群**：28 名
出願資格	令和 6 年度大学入学共通テストのうち指定する教科・科目をすべて受験し，次の (1) から (4) までのすべてに該当する方 (1) 高等学校または中等教育学校を令和 6 年 3 月に卒業見込みの方 (2) 志望する学群に対し，熱意と適性を有する方で，高等学校または中等教育学校の長が責任を持って推薦できる方 (3) 合格した場合には，必ず入学することを確約できる方 (4) 調査書の全体の評定平均値が 4.0 以上の方で，人物，学力とも特に優秀である方
推薦人数の概要	**看護学群** 推薦できる人数は，宮城県内の高等学校または中等教育学校からは 1 校あたり 2 人まで，宮城県外の高等学校または中等教育学校からは 1 校あたり 1 人とします。 **事業構想学群・食産業学群** 推薦できる人数は，宮城県内の高等学校または中等教育学校からは 1 校あたり各学群 4 人まで，宮城県外の高等学校または中等教育学校からは 1 校あたり各学群 2 人までとします。 ※詳細は令和 6 年度入学　入学者選抜要項を確認してください。
出願期間	令和 5 年 12 月 12 日（火）～令和 5 年 12 月 19 日（火）　【期間内必着】
令和 6 年度 大学入学 共通テスト	試験日：令和 6 年 1 月 13 日（土）・令和 6 年 1 月 14 日（日） 〈大学入学共通テストの利用教科・科目〉

教科	国語	地理歴史・公民	理科	数学	外国語	合計
配点	200	100	100	200	250	850

■国　語：「国語」
■地理歴史・公民：「世界史 A」「世界史 B」「日本史 A」「日本史 B」「地理 A」「地理 B」「現代社会」「倫理」「政治・経済」「倫理，政治・経済」から 1
■理　科：「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」から 2 または「物理」「化学」「生物」「地学」から 1
■数　学：「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・A」から 1 かつ「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・B」「簿記・会計」「情報関係基礎」から 1
■外国語：「英語（リーディング・リスニング）」

※大学入学共通テスト「外国語（英語）」における配点について，リーディングとリスニングの配点比率を 4:1 とします。
※大学入学共通テスト「外国語（英語）」の取り扱いについて，受験上の配慮によるリスニング免除者は，リーディングのみの得点を 250 点満点に換算して採用します。
※大学入学共通テスト「地理歴史・公民」を 2 科目受験した場合は，高い方の得点を合否判定に用います。
※大学入学共通テスト「理科」を 2 科目以上受験した場合は，高い方の得点（基礎科目は 2 科目で 100 点満点）を合否判定に用います。

選抜期日	面接実施日：令和 6 月 2 月 4 日（日）
選抜方法	大学入学共通テストの合計点，調査書，推薦書，自己申告書等の出願書類の内容及び面接の成績を総合的に判定します。
合格発表	令和 6 年 2 月 12 日（月）

2 学校推薦型選抜はこんな方にオススメ！

・リーダーシップを発揮し，率先して様々な活動に取り組める方
・大学に入学してから，自分の進みたい道（学類）を決めたい方
・高校までの，偏りなく幅広く，継続した学習の成果が身についている方

3 入試科目「面接」の概要

評価する資質や能力	高校等での学びの実践に基づく，学群での学修に対する強い意欲や高い資質。

一般選抜［前期・後期］

1 選抜方法と日程

募集人員	**看 護 学 群**：前期　48 名 ／ 後期 10 名 **事業構想学群**：前期 100 名 ／ 後期 20 名 **食 産 業 学 群**：前期　62 名 ／ 後期 12 名
令和 6 年度 大学入学 共通テスト	令和 6 年 1 月 13 日（土）・令和 6 年 1 月 14 日（日）
出願期間	令和 6 年 1 月 22 日（月）～令和 6 年 2 月 2 日（金）【最終日消印有効】
個別学力検査	**前期**：令和 6 年 2 月 25 日（日）　**後期**：令和 6 年 3 月 12 日（火） **看 護 学 群**：外国語（英語），論説 **事業構想学群**：外国語（英語），論説，数学 **食 産 業 学 群**：外国語（英語），理科，数学
	前期：令和 6 年 2 月 26 日（月）　**後期**：令和 6 年 3 月 13 日（水） **看 護 学 群**：面接
選抜方法	大学入学共通テスト，学群毎の個別学力検査の成績を基本として調査書等の内容を総合的に判定して行いますが，合否判定に用いた教科等において，得点のない教科等があった場合は合格者とはなりません。看護学群では，面接の評価が一定の基準に満たない場合は，合格対象から除外されます。事業構想学群及び食産業学群では，主体性等の評価のため，活動実績報告書を得点化して総合的な合否判定に用います。
合格発表	**前期**：令和 6 年 3 月 6 日（水）　**後期**：令和 6 年 3 月 20 日（水）

2 大学入学共通テストおよび個別学力検査の科目等

看護学群　一般選抜（前期日程・後期日程）共通

大学入学共通テストの利用教科・科目等		個別学力検査
教科	科目	「外国語」 「論説」 「面接」
国語	「国語」	
地理歴史 公民	「世界史 B」「日本史 B」「地理 B」 「現代社会」「倫理」「政治・経済」 「倫理，政治・経済」 地理歴史・公民から 1	
理科	「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」から 2　かつ「物理」「化学」「生物」から 1 または「物理」「化学」「生物」から 2	
数学	「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学 A」から 1 かつ「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学 B」から 1	
外国語	「英語（リーディング，リスニング）」	
5 教科 7 科目または 5 教科 8 科目		

大学入学共通テスト　選択科目数

国語	地歴公民	理科	数学	外国語
1	1	2 または 3	2	1

大学入学共通テスト　理科の選択方法

大学入学共通テスト利用教科・科目における注意事項
- ●地歴において，「世界史 A」，「日本史 A」，「地理 A」は選択できません。
- ●理科において，「地学基礎」，「地学」は選択できません。
- ●理科の選択方法について，❶（理科基礎あり 2 科目と理科基礎なし 1 科目の選択）の場合，理科は同一名称を含む科目同士の選択が可能です。
- ●「外国語（英語）」の取り扱いについて，受験上の配慮によるリスニング免除者は，リーディングのみの得点を換算して採用します。

事業構想学群　一般選抜（前期日程・後期日程）共通

大学入学共通テストの利用教科・科目等		個別学力検査
教科	科目	「外国語」 「論説」 「数学」
国語	「国語」	
地理歴史 公民	「世界史 B」「日本史 B」「地理 B」 「現代社会」「倫理」「政治・経済」 「倫理，政治・経済」 地理歴史・公民から 1 または 2 地理歴史・公民・理科から 3 または 4	
理科	「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」から 0 または 2 かつ「物理」「化学」「生物」「地学」から 0，1 または 2	
数学	「数学Ⅰ・数学 A」かつ「数学Ⅱ・数学 B」「簿記・会計」「情報関係基礎」から 1	
外国語	「英語（リーディング，リスニング）」	
5 教科 7 科目，5 教科 8 科目，6 教科 7 科目または 6 教科 8 科目		

大学入学共通テスト　選択科目数

国語	地歴公民	理科	数学	外国語
1	3 または 4		2	1

大学入学共通テスト　地歴公民と理科の選択方法

大学入学共通テスト利用教科・科目における注意事項
- ●地歴において，「世界史 A」，「日本史 A」，「地理 A」は選択できません。
- ●❶または❷（地歴公民から 2 科目選択）の場合，公民からの 2 科目選択はできません。
- ●理科の選択方法について，❸（理科基礎あり 2 科目と理科基礎なし 1 科目の選択）の場合，理科は同一名称を含む科目同士の選択が可能です。
- ●「外国語（英語）」の取り扱いについて，受験上の配慮によるリスニング免除者は，リーディングのみの得点を換算して採用します。

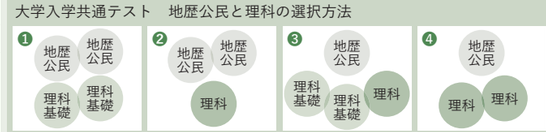
食産業学群　一般選抜（前期日程・後期日程）共通

大学入学共通テストの利用教科・科目等		個別学力検査
教科	科目	「外国語」 「理科」※ 「数学」
国語	「国語」	
地理歴史 公民	「世界史 B」「日本史 B」「地理 B」 「現代社会」「倫理」「政治・経済」 「倫理，政治・経済」 地理歴史・公民から 1 または 2 地理歴史・公民・理科から 3 または 4	
理科	「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」から 0 または 2 かつ「物理」「化学」「生物」から 0，1 または 2	
数学	「数学Ⅰ・数学 A」および「数学Ⅱ・数学 B」	
外国語	「英語（リーディング，リスニング）」	
5 教科 7 科目，5 教科 8 科目，6 教科 7 科目または 6 教科 8 科目		

大学入学共通テスト　選択科目数

国語	地歴公民	理科	数学	外国語
1	3 または 4		2	1

大学入学共通テスト　地歴公民と理科の選択方法



大学入学共通テスト利用教科・科目における注意事項
- ●地歴において，「世界史 A」，「日本史 A」，「地理 A」は選択できません。
- ●理科において，「地学基礎」，「地学」は選択できません。
- ●❶または❷（地歴公民から 2 科目選択）の場合，公民からの 2 科目選択はできません。
- ●理科の選択方法について，❸（理科基礎あり 2 科目と理科基礎なし 1 科目の選択）の場合，理科は同一名称を含む科目同士の選択が可能です。
- ●「外国語（英語）」の取り扱いについて，受験上の配慮によるリスニング免除者は，リーディングのみの得点を換算して採用します。

※個別学力検査の「理科」は，「化学」，「生物」の 2 科目から 1 科目の選択となります。出題範囲は，「化学基礎・化学」，「生物基礎・生物」の全範囲とします。

一般選抜（前期・後期）

3 入試科目「論説」の概要

論説の内容	課題文や資料（文章や図表等）を読み，設問に解答する。
「高校等での学習」の成果として重視する点	得られた事象や情報を整理・分析し，概要にまとめ，論述する力や態度が身についている。
評価する資質や能力	与えられた事象や情報を的確に把握し，その中から必要なものを抽出・分析する力。さらに，課題を見出し，高校等での学習や自身の経験を資料等の内容と関連付けながら，その解決への道筋を考察し，論述できる力。

昨年の「論説」の内容例　（一部を抜粋しています。）

〈テーマ〉

「温泉の利活用について」

〈与えられる資料〉

資料 1　温泉の定義
資料 2　温泉等を利用した施設数の推移（種別）のグラフ
資料 3　源泉数の推移のグラフ
資料 4　温泉のしくみに関する文章

【文章の概要】
　温泉が井戸水と違って温かいのは，地下水が地下で温められる仕組みがあるからである。温泉は火山の熱で温められたものと考えられがちであるが，温泉には火山の近くから湧出する火山性の温泉と，火山などが関係しない平野部などの非火山性の温泉がある。
　温泉は地下深くから湧き出してくるものであるが，そのもととなる水の大部分は，雨水などが長い年月をかけて地下深くまで浸み込んできた地下水が起源であり，様々な種類がある。

資料 5　共同浴場に関する文章

【文章の概要】
　古くから栄える温泉地の多くは温泉街の中心地に共同浴場をもっている。このような共同浴場は温泉地の顔といえる存在で，共同浴場をもつ温泉地では地区を挙げて，“温泉”という共同財産を大切に守ってきた。
　共同浴場は温泉地の中心に位置し，温泉の湧出地に建てられていることが多く，昔から温泉地の人々のコミュニケーションの場として温泉文化が育まれてきた。

資料 6　温泉施設利用者への意識調査に関する文章

【文章の概要】
　温泉が健康増進に有用であることは知られており，厚生労働省でも活用を推進している。
調査では，人々は，「気分転換」「健康増進」「人との交流」「病気やけがの治療」のために温泉を利用していた。また，温泉を有する地域に住む人々にとっての温泉の利用は，健康な生活のためのセルフケア行動につながっていた。

資料 7　温泉資源の保護と活用に関する文章

【文章の概要】
　温泉は，人間や社会にとって，長く資源として利用されてきた。温泉は，これまで「自然からの贈り物」として認識されてきたが，現在ではむしろ「科学技術の成果物」の面が強く，近年の科学技術の発達により，この傾向はますます強くなっている。しかしながら，「科学技術の成果物」としての温泉は，新たな課題を露呈させている。その課題とは，温泉付随ガス中の可燃性天然ガスによる災害リスクの増加，温泉ブームによる温泉資源の枯渇，温泉資源の活用方途の拡大である。

〈設問〉

あなたは，近郊の A 市が温泉を利用した複合施設を開業することを知り，温泉を活用した地域づくりについて調べることにした。資料 1 は，温泉の定義である。次の問 1 ～問 3 に答えなさい。

問 1　あなたは，温泉等を利用した施設数の推移，温泉が湧出する仕組みを明らかにするために，資料 2 ～資料 4 を集めた。これらの資料に基づき，次の設問に答えなさい。
（1）資料 2 から読み取ることができる，1981 年から 2020 年までの温泉等を利用した施設数の推移を，施設の種別による違いを明確にしながら 200 字以内で述べなさい。
（2）資料 3 と資料 4 から読み取ることができる，温泉が湧出する仕組みと掘削の動向を，200 字以内で述べなさい。
⇒ねらい：**与えられた資料から注目する事象や情報を的確に把握する力，把握した事柄を簡潔に記述する力を評価した。**

問 2　次にあなたは，温泉を利用した公衆浴場の役割，人々が温泉施設を利用する目的，温泉資源と地域づくりに関する課題を明らかにするために，資料 5 ～資料 7 を集めた。これらの資料に基づき，次の設問に答えなさい。
（1）温泉を利用した公衆浴場の役割と，人々が温泉施設を利用する目的を読み取り，150 字以内でまとめなさい。
（2）温泉資源と地域づくりに関する課題をそれぞれ読み取り，150 字以内でまとめなさい。
⇒ねらい：**与えられた複数の資料（文章）を読み取り，現象を把握する力，その内容を再編し，文章で表現する力を評価した。**

問 3　A 市が開業する予定の温泉を利用した複合施設には，温泉利用の公衆浴場（以下，公衆浴場とする。），ベーカリー，レストラン，観光農園，フィットネスジムが含まれることになった。そこで，A 市では，これらを効果的に結びつけることで人々の交流が生まれるアイデアを募集することにした。
あなたならどのような人を対象に，公衆浴場とどの施設を結びつけ，どのようなアイデアを提案するか。資料 1 ～資料 7 のうち必要な資料と関連づけて，具体的に 300 字以内で述べなさい
⇒ねらい：**与えられた文章や資料から課題を見いだし，高等学校等での学習や自身の経験と関連付けながら，解決への道筋を考察し，それらを論理的な文章にまとめる力を評価した。**

論説のポイント

・1 つのテーマに関する複数の資料（文章，グラフ，表等）について，それらを関連付けながら読み解くことができるようにしよう。
・課題になっていることは何か，自分ならその課題にどう対応するかを常に考えるようにしよう。その時に，自分の考えを補強するためにはどんなことを調べたらよいかも，あわせて考えてみよう。
・普段から，論理的でわかりやすい文章で表現できるように心がけよう。

4 一般選抜における主体性等の評価

一般選抜における主体性等の評価は，看護学群では，面接で行います。
事業構想学群と食産業学群では，出願時に調査書と対応した 5 項目のチェックリストを設け，「活動実績報告書」として出願者に自己申告していただき，全出願者分を採点することとします。記載内容の根拠は，調査書にて確認し，その他の追加資料（e ポートフォリオ等）を求めることはしません。

主体性等の評価方法

看　護　学　群：面接（前期日程では 2 月 26 日，後期日程では 3 月 13 日に実施する）
事業構想学群：活動実績報告書（出願時に自己申告する）
食 産 業 学 群：活動実績報告書（出願時に自己申告する）

〈「活動実績報告書」の内容〉

出願時に，以下の 5 項目のチェックリストを設け，出願者に自己申告していただきます。
出願者は以下の項目に関して自らの取組状況を振り返り，該当するかどうかを自己申告していただきます。

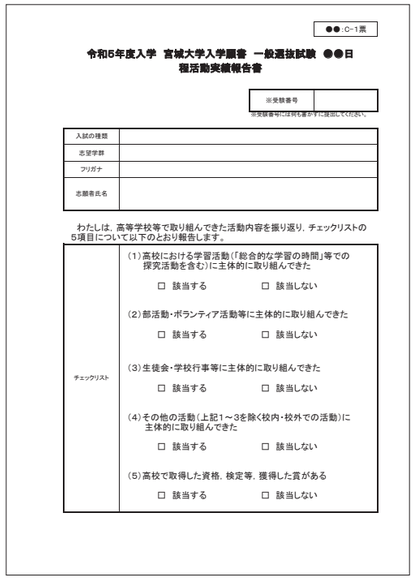
（1）高校における学習活動に主体的に取り組んできた
（2）部活動・ボランティア活動等に主体的に取り組んできた
（3）生徒会・学校行事等に主体的に取り組んできた
（4）その他の活動に主体的に取り組んできた
（5）高校で取得した資格，検定等，獲得した賞がある

※（1）には「総合的な学習（探究）の時間」等での探究活動を含みます。

記載内容の根拠の確認について

・調査書のいずれかの欄に 1 つでも該当する記述があれば，自己申告の根拠とします。
・調査書では「事実の記載があるかどうか」を根拠として確認します。記述の多寡は問いません。
・調査書が提出できない出願者については，インターネット出願サイトより出力される「活動実績報告書」に加えて，別途，具体的な取り組みについての自由記述による「活動実績報告書【追加記述用】」を作成し提出してください。

〔インターネット出願サイトより出力される活動実績報告書〕


●●：C-1票

令和6年度入学　宮城大学入学願書　一般選抜試験　●●日
種活動実績報告書

※受験番号	

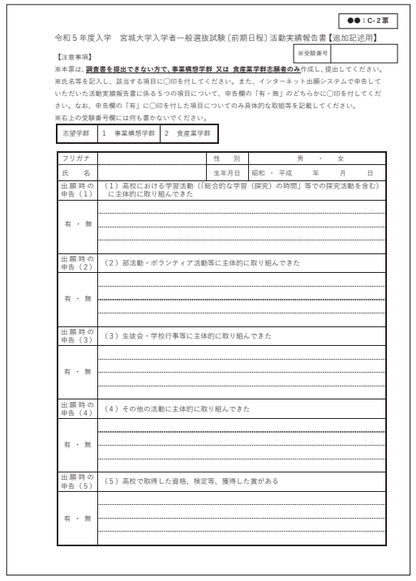
※受験番号には何も書かずに提出してください。

入試の種類	
志望学群	
フリガナ	
志願者氏名	

わたしは，高等学校等で取り組んできた活動内容を振り返り，チェックリストの5項目について以下のとおり報告します。

チェックリスト	（1）高校における学習活動（「総合的な学習の時間」等での探究活動を含む）に主体的に取り組んできた ☐ 該当する　☐ 該当しない （2）部活動・ボランティア活動等に主体的に取り組んできた ☐ 該当する　☐ 該当しない （3）生徒会・学校行事等に主体的に取り組んできた ☐ 該当する　☐ 該当しない （4）その他の活動（上記1～3を除く校内・校外での活動）に主体的に取り組んできた ☐ 該当する　☐ 該当しない （5）高校で取得した資格，検定等，獲得した賞がある ☐ 該当する　☐ 該当しない

〔調査書を提出できない方の活動実績報告書【追加記述用】〕


●●：C-2票

令和５年度入学　宮城大学入学者一般選抜試験（前期日程）活動実績報告書【追加記述用】

※受験番号	

【注意事項】
※本票は，**調査書を提出できない方で，事業構想学群 又は 食産業学群志願者のみ**作成し，提出してください。
※氏名等を記入し，該当する項目に〇印を付してください。また，インターネット出願システムで申告していただいた活動実績報告書に係る５つの項目について，申告欄の「有・無」のどちらかに〇印を付してください。なお，申告欄の「有」に〇印を付した項目についてのみ具体的な取組等を記載してください。
※右上の受験番号欄には何も書かないでください。

志望学群	1　事業構想学群	2　食産業学群	

フリガナ		性　別	男　・　女
氏　名		生年月日	昭和　・平成　年　月　日
出願時の申告（1）	（1）高校における学習活動（「総合的な学習（探究）の時間」等での探究活動を含む）に主体的に取り組んできた		
有　・　無			
出願時の申告（2）	（2）部活動・ボランティア活動等に主体的に取り組んできた		
有　・　無			
出願時の申告（3）	（3）生徒会・学校行事等に主体的に取り組んできた		
有　・　無			
出願時の申告（4）	（4）その他の活動に主体的に取り組んできた		
有　・　無			
出願時の申告（5）	（5）高校で取得した資格，検定等，獲得した賞がある		
有　・　無			

（※令和 5 年度入学者選抜で使用したものです。令和 6 年度入学者選抜では変更が生じる場合があります。）

入学者選抜方法についてのQ＆A

●総合型選抜に関すること

Q 1 **総合型選抜には，学校長の推薦書が不要となっていますが，高校等の卒業見込み者だけでなく，既に高校等を卒業した者でも出願できますか。**

A 1 総合型選抜の出願資格は，学校推薦型選抜と異なり，必ずしも高校等の卒業見込み者であることを求めているわけではありません。令和 6 年度入試では平成 13 年 4 月 2 日以後に出生された方で，その他の要件を満たす方であれば，出願資格があります。

Q 2 **調査書の評定はどのくらい必要ですか。**

A 2 総合型選抜では，出願要件としての基準を設けていません。評定だけではなく，調査書の内容を総合的に評価します。（注：学校推薦型選抜の出願要件については，調査書の全体の評定平均値が4．0以上としています。）

Q 3 **自己申告書①に記載できるのは，学習の成果だけですか。部活動等について記載しても評価されないのでしょうか。**

A 3 学習成果（各教科の学習，ホームルーム活動，生徒会活動および学校行事での成果）を評価対象としています。部活動や校外での活動を除外するものではありませんが，「学習成果」と関連付けて記載してください。

Q 4 **レクチャー①，レクチャー②の内容は志望する学群・学類に関連した内容が出るのですか。**

A 4 全学類の受験者に対して同じ内容のレクチャーを行いますので，必ずしも志望する学群・学類に関連した内容ではありません。

Q 5 **レクチャー②は，第1次選考のレクチャー①と関連する内容ですか。**

A 5 レクチャー②の内容は，レクチャー①のテーマを踏まえ，多様な視点を加えて発展させたものを予定しています。

Q 6 **レクチャーレポート作成のためには，どのような対策が必要ですか。**

A 6 高等学校等での授業の時に先生が話した内容についてメモをとり，自分で整理することがとてもよいトレーニングになります。

Q 7 **総合型選抜で入学することのメリットは何ですか。**

A 7 総合型選抜合格者は，入学時から学類が決定しているため，1 年次から，各学類の 2 年次からの専門的な学びを見通した学修に取り組むことができます。

Q 8 **学校推薦型選抜・一般選抜との併願はできますか。**

A 8 本学の学校推薦型選抜・一般選抜にも出願することができます。ただし，総合型選抜に合格し，入学手続を済ませた後は，他の入試区分の入試を受けても合格者とはなりません。

●学校推薦型選抜に関すること

Q 9 **総合型選抜・一般選抜との併願はできますか。**

A 9 本学の総合型選抜・一般選抜にも出願することができます。ただし，学校推薦型選抜に合格し，入学手続を済ませた後は，他の入試区分の入試を受けても合格者とはなりません。なお，他の国公立大学の学校推薦型選抜とは併願できませんので，注意してください。

Q 10 **大学入学共通テストの得点はどのように扱われますか。**

A 10 本学が指定する教科・科目の大学入学共通テストの合計点は，出願書類の内容および面接の成績とともに，総合的な合否判定に利用します。

●一般選抜に関すること

Q 11 **数学や理科の個別学力検査の出題範囲を教えてください。**

A 11 事業構想学群と食産業学群で課される数学においては，「数学Ⅰ」「数学 A」「数学Ⅱ」「数学 B」の全範囲から出題します。ただし，「数学 A」は「場合の数と確率」「整数の性質」「図形の性質」の 3 項目の内容のうち 2 項目以上を，「数学 B」は「数列」「ベクトル」「確率分布と統計的な推測」の 3 項目の内容のうち 2 項目以上を学習した者に対応した出題とし，問題を選択解答できるようにします。
また，食産業学群の個別学力検査において，理科は「化学基礎・化学」「生物基礎・生物」から 1 科目の選択とし，いずれも全範囲からの出題とします。

令和５年度入学　入試結果

入試の単位	区　分	学群	学類	募集人員	出願者数	第１次選考受験者数	第１次選考合格者数	第１次選考実質競争倍率	第２次選考受験者数	第２次選考合格者数	第２次選考実質競争倍率	実質競争倍率（全体）	入学者数
学類単位の入試	総合型選抜	看護学群	看護学類	8	56	56	22	2.5	22	10	2.2	5.6	10
		事業構想学群	事業プランニング学類	8	39	39	20	2.0	20	10	2.0	3.9	10
			地域創生学類	8	31	31	21	1.5	21	9	2.3	3.4	9
			価値創造デザイン学類	8	46	46	22	2.1	22	8	2.8	5.8	8
		食産業学群	生物生産学類	8	13	13	11	1.2	11	9	1.2	1.4	9
			フードマネジメント学類	8	26	26	21	1.2	21	10	2.1	2.6	10

入試の単位	区分	学群	募集人員	出願者数	受験者数	合格者数	実質競争倍率	入学者数
学群単位の入試	学校推薦型選抜	看護学群	24	67	67	27	2.5	27
		事業構想学群	40	99	99	47	2.1	47
		食産業学群	28	38	37	32	1.2	32
	一般選抜（前期）	看護学群	48	158	127	54	2.4	51
		事業構想学群	100	264	211	117	1.8	111
		食産業学群	62	133	105	78	1.3	65
	一般選抜（後期）	看護学群	10	159	53	10	5.3	9
		事業構想学群	20	331	106	34	3.1	29
		食産業学群	12	229	41	24	1.7	19

令和５年度出身校所在地別志願者数・入学者数

出身校所在地	看護学群						事業構想学群						食産業学群					
	志願者数			入学者数			志願者数			入学者数			志願者数			入学者数		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
北海道	0	7	7	0	1	1	4	7	11	1	1	2	4	5	9	1	3	4
青森県	1	28	29	0	6	6	11	27	38	2	8	10	1	20	21	1	9	10
岩手県	6	33	39	1	10	11	30	40	70	7	12	19	6	21	27	0	9	9
宮城県	15	242	257	3	56	59	237	281	518	52	80	132	61	125	186	18	39	57
秋田県	3	13	16	1	5	6	12	13	25	4	7	11	4	10	14	2	4	6
山形県	3	17	20	1	3	4	23	26	49	6	9	15	4	13	17	0	3	3
福島県	0	28	28	0	4	4	15	36	51	3	13	16	6	19	25	2	7	9
東北６県	28	361	389	6	84	90	328	423	751	74	129	203	82	208	290	23	71	94
関東	5	21	26	0	3	3	11	12	23	0	4	4	28	34	62	10	11	21
中部	1	11	12	0	2	2	7	7	14	1	4	5	23	31	54	6	5	11
近畿	0	0	0	0	0	0	2	1	3	0	0	0	7	6	13	2	1	3
中国・四国	0	1	1	0	0	0	1	2	3	0	0	0	5	3	8	0	1	1
九州・沖縄	0	3	3	0	0	0	0	4	4	0	0	0	1	2	3	1	0	1
その他	0	3	3	0	1	1	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	34	407	441	6	91	97	354	457	811	76	138	214	150	289	439	43	92	135